

現地ルポ

MBA 使えん？使えない？ アソシエ読者英国体験記

1週間



〔後編〕

ビジネスパーソンとしてスキルを上げるため「MBA(経営学修士)」などの学位に挑戦しようとする人は多い。だが、MBAや理学修士で何を学べるか、体験する機会はあまりない。そこで英国の公的文化交流機関フリティッシュ・カウンシルの協力を得て、2人のアソシエ読者に1週間ずつ、英国で留学を体験してもらい、密着取材した。2人の目線で見た授業の内容、同級生とのやり取り、2人の悩み、喜び、そして決意をレポートする。2回連続シリーズの後編。
(敬称略)

前号で紹介した松下電器産業の森敬士(36歳)に続き、今号取り上げる伊藤麻衣子(29歳)も仕事に生かすための海外学位取得を希望している。

伊藤は若手起業家を支援するNPO(非営利組織)「ETIC」のスタッフとして、起業を希望する若者に対してビジネスモデルをどう構築したらよいかのコンサルティングを行っている。体系立てて経営学を学ぶことで、より効果的にコンサルティングできるようにしたいと考えているのだ。

伊藤は行き先にバース大学大学院を選んだ。ここにはMBAのほか、MSc in Responsibility & Business Practice(ビジネスにおける社会的責任についての理学修士コース。以下、MSc)がある。

MScの学生は企業の社員、NPO

のリーダー、コンサルタントらだ。ビジネスパーソン向けのコースはMBAだけでは不十分だと感じた教授が1997年に発足させた学位で、非営利団体や企業で社会貢献を担当する部署の運営手法などを学べる。3カ月に1週間ずつ、2年間で合計8週間の授業を履修するパートタイムコースで、伊藤が滞在する週はちょうど授業期間に当たっていた。伊藤は大学と交渉し、1週間でMBAとMScの両方を体験するプログラムを組んだ。

ビジネスパーソン向けの2つのコースに挑戦

そして渡英。ロンドンから2時間電車で揺られ、バースに到着した。

最初の授業はMScだ。30人弱の学生たちの国籍は英国、フランスなど欧

文/小田舞子
写真/宮原一郎

授業の前後も情報交換の貴重な時間だ

MScの授業では学生も教授もリラックスしている

経済学授業。みんな笑顔なのは授業が終わっているから

1週間留学を体験するMBA専用校舎。緑に囲まれている

ロンドン、ヒースロー空港に到着。久々の英国

MBAの授業風景。後ろに座る欧米の方が活発な印象だ

